

総本社

当社では、事業分野や商品別（縦軸）に構成される営業組織（カンパニー）に対し、全社横断的な横軸機能を付加する目的から、営業分掌役員および職能分掌役員を設けています。個々のカンパニーだけでなく、総合力を発揮し全体の利益を極大化するために、またそのため

営業分掌



「Frontier-2006」において将来の収益の柱となることを目指す「消費者ビジネス」、「ライフ&ヒューマンケア」、「先端技術等」の三分野を中心に、当社は全社横断的な事業開発を、スピードを上げて推進していきます。各カンパニーによる新規ビジネス開発において、本社の横串機能を加えることで、グループ総合力を一段と発揮していきます。

こうした活動は、総本社開発組織である開発戦略室、先端技術戦略室、新産業事業室（2005年4月新設）に加え、FV (Function & Value) 委員会が推進します。

FV (Function & Value) 委員会

前期に引き続き、営業分掌役員を委員長として、伊藤忠グループの総合力を発揮するための活動を行います。具体的には、上記3分野において、伊藤忠グループ内の『機能 (Function)』を集結・強化し、『付加価値 (Value)』の創造を目指します。

開発戦略室

「消費者ビジネス」における横断型および先行布石型案件の開発支援、「がんばれ日本企業!ファンD」等のファンドや地方自治体との提携を活用した中小企業関連ビジネス、CO₂ 排出権ビジネスなどを推進します。

先端技術戦略室

機能性食品、バイオ医薬、セキュリティ・ナノテク等に重点を置き、世界最大のバイオベンチャーキャ

ピタルである米国MPMや日本の産業技術総合研究所との戦略提携を利用し、創業ベンチャーへの投資や環境技術などの共同開発を推進します。

新産業事業室（2005年4月新設）

複数のカンパニーにまたがる横断型案件を中心とする新規ビジネスへの参入、および収益化まで長期間を要する先行布石型案件への投資を推進します。特に、高齢化などの社会変化を見据えた「ライフ&ヒューマンケア」分野における新たな市場創出や、先端技術を核とした事業の早期収益化を目指し、具体的な取組みを推進します。

営業分掌役員
加藤 誠

の取組み方針の一元化・最適化を図るために、必要に応じカンパニープレジデントを指示・指導するのが営業分掌役員です。一方、全社経営方針・計画達成に向けた職能業務の円滑な運営、業務内容の高度化のために、職能部署全体を総括するのが職能分掌役員です。

職能分掌

「Frontier-2006」の守りの部分、すなわち「財務体質の改善・リスクマネジメントの強化」「内部統制強化・CSR推進」「透明性の高いコーポレートガバナンスの確立」を担うのが、職能分掌役員の役割です。

職能の機能強化のために、2005年4月に、以下の組織改編を行いました。



リスクマネジメントの強化

リスクマネジメント強化の一環として、リスクマネジメント部と事業部を統合し、事業・リスクマネジメント部としました。会社が抱えるリスクを洗い出し、重要性和発生頻度を基準として、リスクを評価、網羅的に管理するリスクマップを活用することにより、連結ベースでのリスクマネジメントを強化していきます。

CSR推進

CSR推進の一環としては、CSRおよびコンプライアンスに関連する部署を統合しCSR・コンプライアンス統括部としました。また、同部内にCSR推進室を新設し、CSRをこれまで以上に積極的に推進していきます。また、「企業倫理・コンプライアンス委員会」を「CSR・コンプライアンス委員会」に改称し、CSRの推進が同委員会の重要なミッションであることを明確化しました。今後、CSR・コンプライアンス委員会およびCSR・コンプライアンス統括部を中心に、CSRを積極的に推進するだけでなく、ステークホルダーに対するアカウンタビリティ向上のため、近い将来にCSRレポートを発行することを検討します。

透明性の高いコーポレートガバナンスの確立

透明性の高いコーポレートガバナンスを確立するため、新設されたCFO室を事務局とする開示委員会を設置し、財務報告を含めた開示にかかわる内部統制に関する方針・施策の検討、有価証券報告書等の内容の正確性確認を行い、伊藤忠グループの内部統制の整備を図っていきます。

職能分掌役員
(兼)チーフ フィナンシャル オフィサー
(兼)チーフ コンプライアンス オフィサー
藤田 純孝